

千葉県感染症発生動向調査情報

2019年 第4週 (1/21-1/27) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		4週	3週	2週	1週
小児科		18	18	18	17
眼科		5	5	5	4
インフルエンザ*		28	28	28	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					
		注意報	1/21-1/27	1/14-1/20	1/7-1/13	12/31-1/6	1/14-1/20
			4週	3週	2週	1週	3週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	0 0.00	1 0.06	0 0.00	28 0.21
	咽頭結膜熱		2 0.11	1 0.06	3 0.17	1 0.06	22 0.17
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	65 3.61	54 3.00	55 3.06	18 1.06	348 2.64
	感染性胃腸炎		178 9.89	136 7.56	202 11.22	53 3.12	965 7.31
	水痘		7 0.39	9 0.50	3 0.17	7 0.41	48 0.36
	手足口病		1 0.06	1 0.06	1 0.06	2 0.12	5 0.04
	伝染性紅斑	↓	18 1.00	22 1.22	28 1.56	8 0.47	150 1.14
	突発性発しん		8 0.44	8 0.44	11 0.61	5 0.29	46 0.35
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	2 0.02
	流行性耳下腺炎		1 0.06	1 0.06	0 0.00	0 0.00	7 0.05
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★★◎	1,904 68.00	1,525 54.46	937 33.46	211 7.81	13,629 64.29
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	0 0.00	2 0.40	3 0.75	18 0.51
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	A型肝炎	男性	50歳代	血清IgM抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	病原体等の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出

・第4週は、結核4件(11)、A型肝炎1件(1)、梅毒1件(4)、百日咳1件(6)、風しん1件(8)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第4週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し3.61となった。過去10年の同時期と比べると最多。

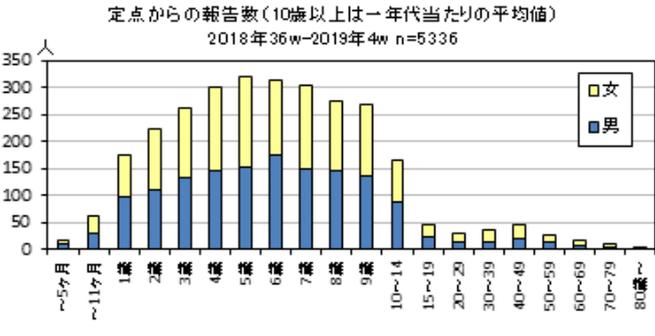
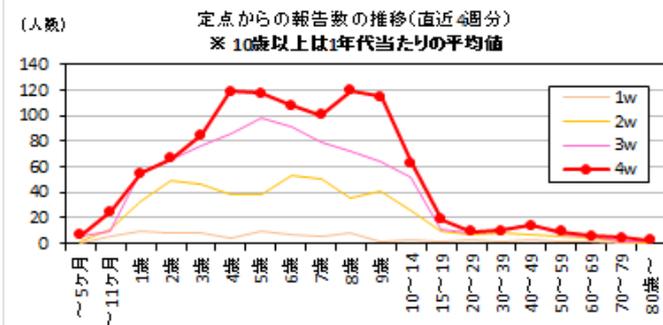
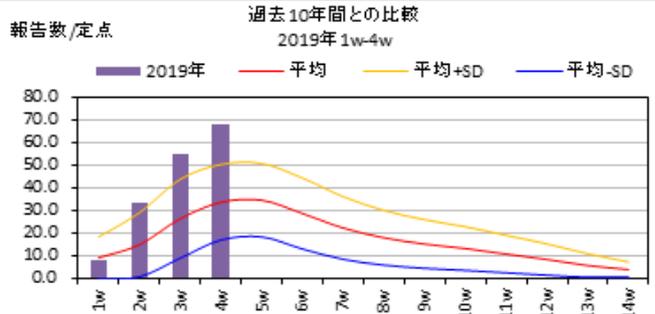
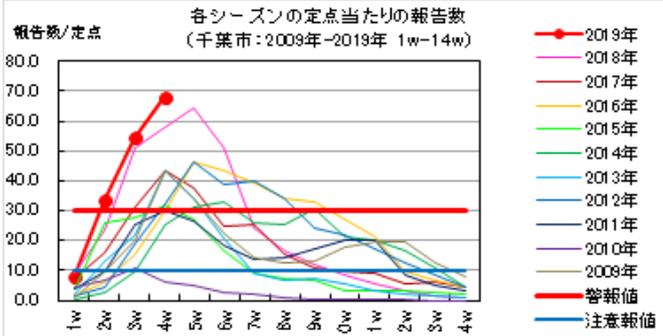
<伝染性紅斑> 前週より更に減少し1.00となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。

<インフルエンザ> 前週より更に増加し68.00となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで過去10年の同時期と比べると最多のまま。

■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

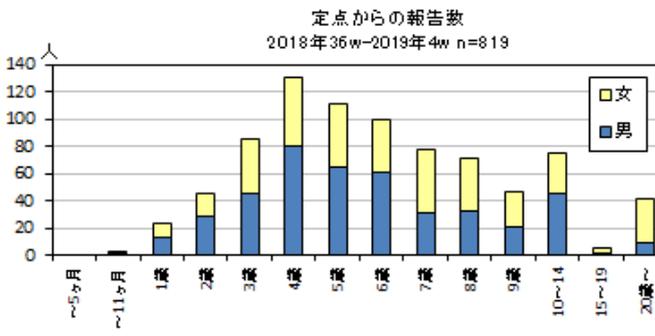
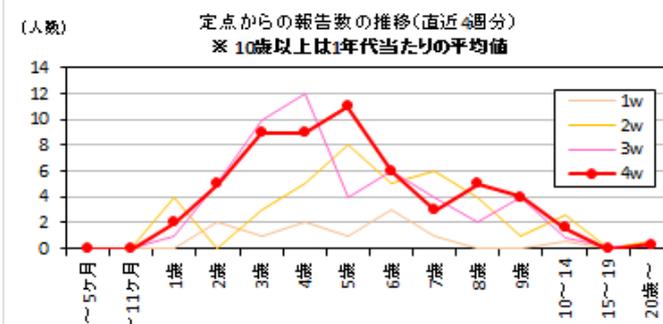
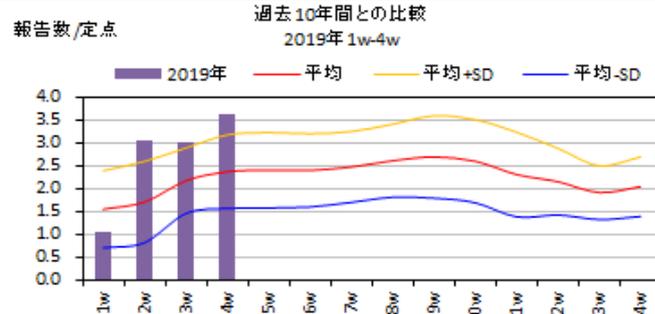
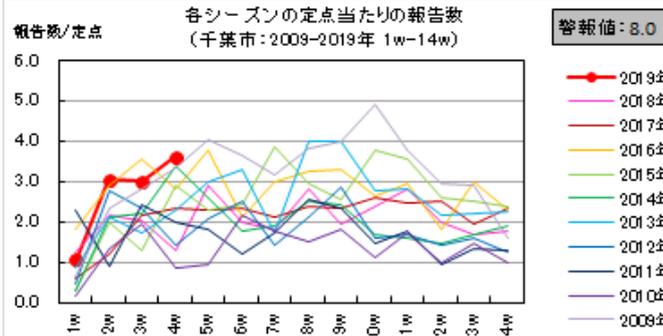
全国レベルの第3週は、流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では愛知県、埼玉県、静岡県 の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の第4週は前週より更に増加し68.00となり、13年ぶりに定点当たりの報告数が60を上回った2018年第5週を上回り、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は全区で流行発生警報開始基準値を上回り、過去10年の同時期と比べると最多となっており、中央区(86.4/定点)で最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは4歳及び5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第4週までの累積報告数は5336件で、性別では男性が49.5%(2642名)、女性が50.5%(2694名)で、年齢階級別では5歳(6.0%:322名)、6歳(5.9%:315名)、7歳(5.7%:306名)の順で多く、20歳未満は全体の67.4%、10歳未満は全体の47.4%となっています。



	第4週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過		警報	警報	警報	警報	警報	警報	警報
過去10年の同時期との比較		最多	最多	最多	最多	最多	最多	最多
昨年の同時期との比較		多い	多い	多い	多い	多い	多い	多い

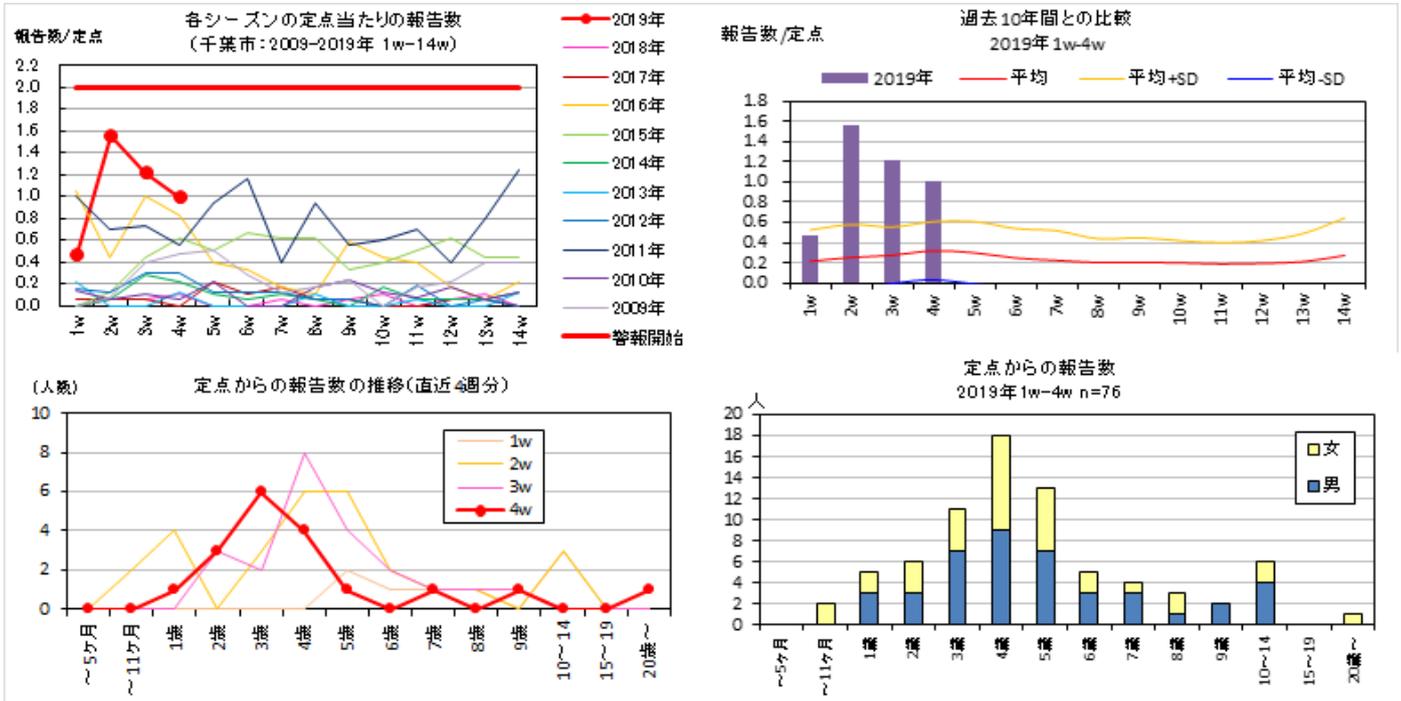
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第3週は、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、石川県、鳥取県、岩手県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第4週は前週から増加し3.61となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、緑区(11.0/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第4週までの累積報告数は819件で、性別では男性が53.6%(439名)、女性が46.4%(380名)となっており、年齢階級別では4歳(16.0%:131名)、5歳(13.6%:111名)、6歳(12.2%:100名)の順で多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第3週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、宮城県、新潟県、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の第4週は前週から更に減少し1.0となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳で多く発生報告がありました。2019年第1週から第4週までの累積報告数は76件で、性別では男性が55.3%(42名)、女性が44.7%(34名)となっており、年齢階級別では4歳(23.7%:18名)、5歳(17.1%:13名)、3歳(14.5%:11名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第3週は207件で、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く報告されています。千葉市は第4週に1件の発生届があり、累計で8件となっています。性別では男性が62.5%(5名)、女性が37.5%(3名)となっており、年齢階級別では30歳代(62.5%:5名)が最も多くなっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の9割近くとなっています。

